

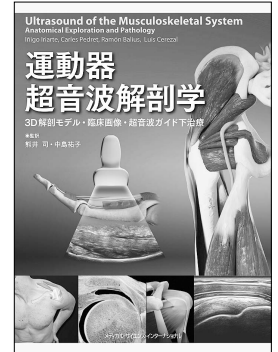
運動器超音波解剖学

3D 解剖モデル・臨床画像・超音波ガイド下治療

熊井 司，中島祐子・監訳

評者 皆川洋至 (城東整形外科副院長)

B5 変・624 頁
2026 年 5 月
定価：19,800 円
(本体 18,000 円＋税 10%)
ISBN978-4-8157-3143-4
メディカル・サイエンス・
インターナショナル 刊



本書は、スペインのイリアテ先生ら 4 名による共著の日本語翻訳書である。脊椎を除く四肢の超音波解剖を中心に、臨床で遭遇するさまざまな運動器疾患について、臨床所見、超音波解剖に基づく異常所見、さらには画像所見の分類まで詳細に解説した力作である。単なるアトラスにとどまらず、解剖学と臨床を結びつける実践的な内容となっており、運動器超音波診療に携わる医療者にとって貴重な参考書といえる。

評者自身も 2010 年に『超音波でわかる運動器疾患』（メジカルビュー社）を執筆し、同書は約 2 万部を発行、さらに英語版、韓国語版、中国語版も刊行された。当時は運動器エコーがようやく普及し始めた時期であり、わかりにくいエコー画像を理解しやすく提示するため、ご遺体の断面標本や 3D-CT、MRI などを駆使しながら制作に多大な労力を要したことを今でも鮮明に覚えている。その経験があるからこそ、本書に収載された膨大な超音波画像、解剖断面図、CG 画像、MRI 画像の価値と、それらをまとめ上げた著者らの並々な

らぬ熱意がよく理解できる。なかでも解剖断面図の美しさは特筆に値する。超音波画像との対比が非常にわかりやすく、立体的な解剖理解を助ける構成となっている。運動器超音波の学習において最も難しいのは画像と実際の解剖構造を結び付けることであり、その点で本書は大きな役割を果たしている。

運動器領域のすべてを網羅しているわけではない。しかし、その分内容は極めて充実しており、書籍自体もかなりの厚さを有する。最初から通読するというよりは、辞書やリファレンスとして必要な項目を深く読み込む使い方が適しているだろう。特に末梢神経の章は秀逸で、日本ではまだあまり知られていない疾患まで取り上げられており、一読の価値がある。全体を通じて、本書は著者らの豊富な臨床経験と長年にわたる研鑽の結晶であることが伝わってくる。運動器超音波を深く学びたい臨床家にとって、長く手元に置いて活用できる優れた一冊である。